

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1)基本目標：「人間尊重の精神」を基盤として、心身ともに健康で知・徳・体の調和のとれた、
心豊かでたくましい生徒を育成する。

(2)具体目標(具体的な児童生徒像など):◎長期目標として

◎たしかな学力をもつ生徒(知) ◎豊かな心をもつ生徒(徳) ◎強い体力・気力をもつ生徒(体)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「生徒が安心して力を発揮できる学校」

社会に貢献できる日本人を育成するため、生徒一人一人の自らの良さや持てる力に気付かせ、それらを伸ばしていく指導のもとに、確かな学び、豊かな心、健やかな体を育む教育活動の充実を図る。さらに、人とのつながりの中で互いに支え合い、人に役立つことの意義が理解できる生徒を育成する。そのために、すべての生徒が安心して力を発揮できる学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 基本的な考え方

これからの共生社会を担う健全な生徒の育成を目指し、知・徳・体の調和のとれた教育を行う。そのため、正しい人間観を育てる教育を重視するとともに、社会性を高めるための諸活動を通じて、他者とよりよく生きる力を育成する。併せて、地域に開かれた信頼される学校づくりに努めるとともに、地域の教育力の活用に努める。

(2) 基本方針

- ① 学業指導を充実し、生徒一人一人の自己実現に向けた主体的・協働的な学習の推進と、社会との関わりの中で自分の生き方を見つめ考えさせるキャリア教育の充実を図る。
- ② 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と思考力、判断力、表現力の育成に加え、学力調査等の活用と学習習慣の確立による、確かな学力を育む学習指導を推進する。
- ③ 生徒一人一人の人格を尊重し、自己有用感と思いやりの育成を積み重ね、困難を乗り越えるたくましさや夢や目標を持って社会に貢献しようとする豊かな心を育む教育を推進する。
- ④ 生涯にわたって健康で安全な潤いある生活が送れるよう、健康教育と安全教育の充実を図り、強い体力・気力を育む教育を推進する。
- ⑤ 共生社会の実現を目指すため人権教育の充実とグローバルコミュニケーション能力の育成を図る。
- ⑥ インクルーシブ教育システムの推進に向けた特別支援教育の充実を図る。
- ⑦ 特別の教科「道徳」の実施にあたり、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に組織的に取り組む。
- ⑧ 「部活動方針」に基づいた、適切な部活動運営への改革を図る。
- ⑨ 地域学校園小中一貫教育の推進と地域諸団体との連携、生徒の地域貢献活動の実践による、地域とともにある学校づくりを推進する。
- ⑩ 学校における働き方改革を推進するとともに、教育公務員としての使命と職責を自覚し、相互に高め合い学び合う協働的な同僚性の構築と、教職員の指導力と専門性の向上を目指す。

(3) 育てたい資質・能力

- ① 小規模校の強みを生かし、多くの体験学習を通して自己有用感を育てる。
- ② コミュニケーション力を高め、生徒相互の多様な力を認め合い、共感的な人間関係を育てる。
- ③ 自己決定の場を設け、その実現に向けて粘り強く取り組むとともに、夢や目標を持って社会に貢献しようとする意欲と態度を育てる。

【晃陽地域学校園教育ビジョン】

「地域に根ざし、子どもが生き生きと活動する地域学校園」

－児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を目指して－

4 教育課程編成の方針

教育基本法及び学校教育法その他の法令、学習指導要領に従い、宇都宮市立学校の管理運営に関する規則第7条に基づいた、「宇都宮市立小中学校の教育課程及びその編成の基準」を踏まえ、生徒の人間としての調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達や特性等を十分考慮して、本校の教育目標を達成すべく適切な教育課程を編成するものとする。

さらに平成29年告示中学校学習指導要領に示された、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創するという理念を学校と社会が共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

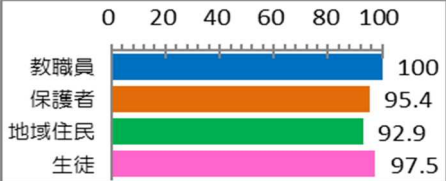
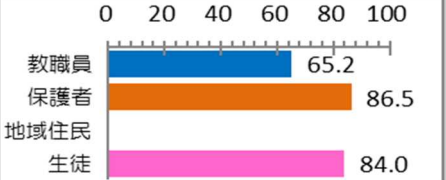
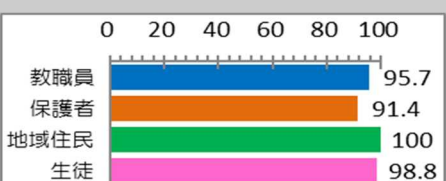
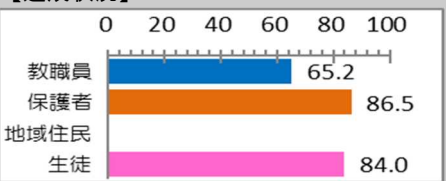
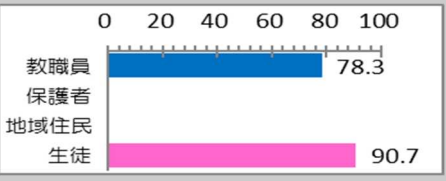
- 【学校運営】 ○生徒が安心して力を発揮できる学校づくりのための指導と評価の充実
- 【学習指導】 ○学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の学習習慣の育成
- 【児童生徒指導】 ・自己有用感を育てる生徒指導と個別指導の充実
- 【健康（体力・保健・食・安全）】 ・自他ともに健康で安全な生活を送ろうとする実践力の育成

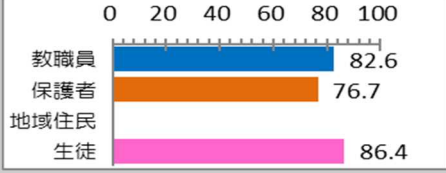
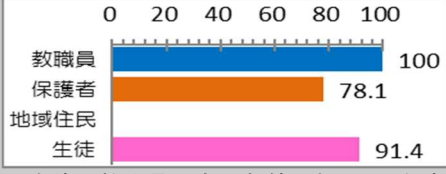
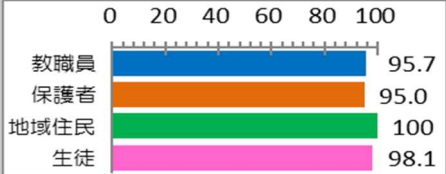
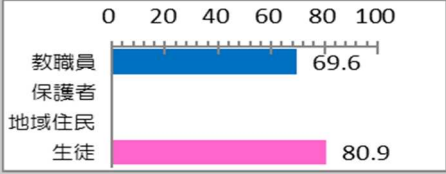
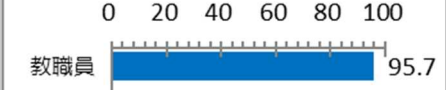
6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

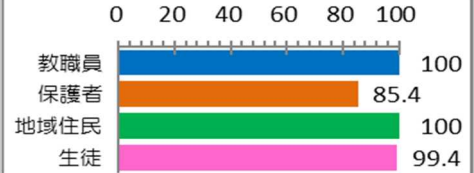
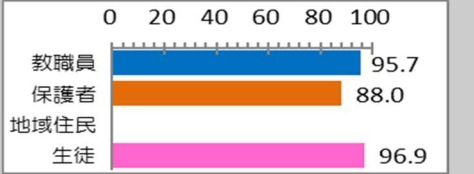
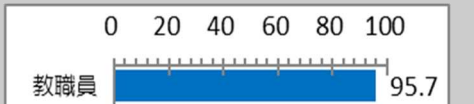
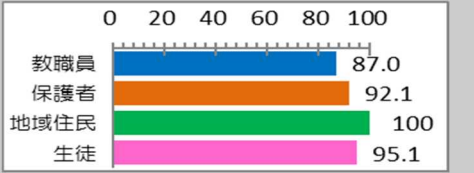
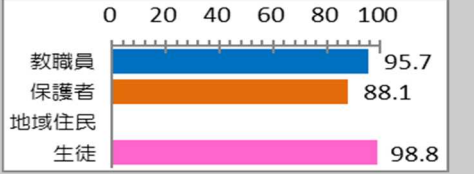
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

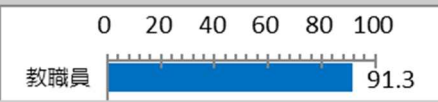
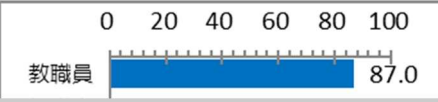
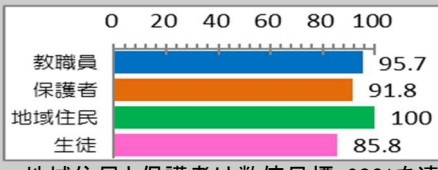
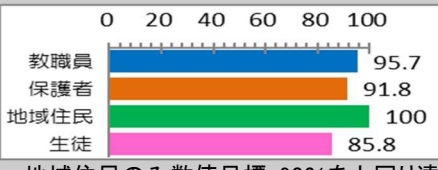
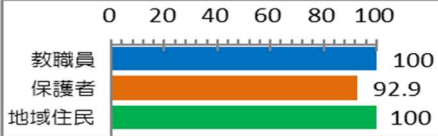
※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

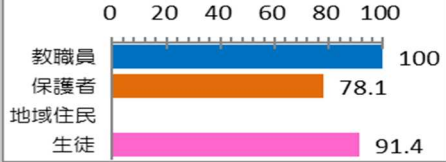
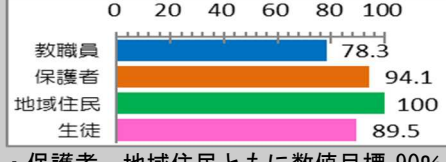
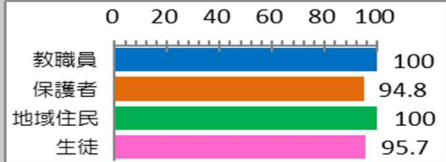
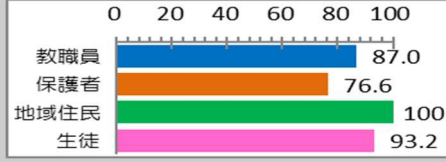
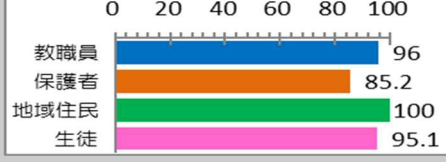
項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 生 徒 の 姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① キャリア教育と連携しながら、学習の動機付けを行っていく。 ② 〳の学習等において、基礎的・基本的内容の定着を図り、自信をもたせる。 ③ 各種学力調査等の結果を活用し、より効果的な指導法の工夫に努め、学習意欲の向上を目指す。	A	【達成状況】 ・生徒の数値目標 85%を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、〳の学習が生徒にとってより良いものになるよう工夫していくと共に、主体的な学ぶ力の育成に取り組んでいく。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 85%以上	① 道徳の授業で、「考える道徳」「議論する道徳」を展開し、生徒の道徳性を育てる。 ② 授業や学校行事でのより良い集団作りを目指す。 ③ 生徒の良い行いなどを認め称賛する機会を多く作る。	B	【達成状況】 ・生徒、保護者ともに数値目標 85%を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、道徳の授業の充実を図ると共に生徒一人一人を認め称賛していく。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 90%以上	① 生活の一日の決まりやチャイム着席など授業時の約束事（準備・姿勢・返事）を実践させ、規律ある生活のリズムを身に付けさせる。 ② 道徳の授業などで、きまりやマナーを守ることの意義を理解させる。	B	【達成状況】 ・生徒、教職員ともに数値目標 90%を達成できた。 【次年度の方針】 ・継続的に指導に当たっていく。

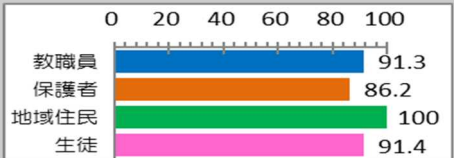
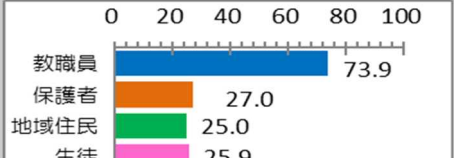
A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒・地域住民・教職員の肯定的回答 90%以上	① 教職員・来客者・地域の人に対して、心をこめたあいさつができるように努めさせる。 ② 生徒会の取組を活性化し、晃陽地域学校園あいさつ運動を定期的実践する。 ③ あいさつを相手の顔を見てできるように共通指導していく。	【達成状況】  ・生徒、地域住民、教職員ともに数値目標90%を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、TPOをわきまえたあいさつ指導を充実させていく。
A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 短期での実現可能な目標設定により、達成感・成就感を積み重ね、目標実現への自信を持たせる。 ② 学級経営や学校行事等で、目標を掲げ協力して取り組む中で、意義を見いださせる。 ③ 学習指導において、個別指導の充実を図るとともに自主学習の課題を与え、基礎基本の定着をととして、目標に向かう姿勢を身に付けさせる。	【達成状況】  ・生徒、保護者は数値目標80%を達成できたが、教職員は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・学校行事の充実をはじめ、生徒一人一人がそれぞれ自分に自信がもてるような指導を工夫していく。
A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒・保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 健康診断や新体力テストの結果を生かし、自分の健康についての意識を高めさせる。 ② 自転車の安全な乗り方・交通マナーを常時指導で身に付けさせ、自転車事故ゼロを目指す。 ③ 「保健だより」「食育だより」等を活用し、保護者への啓発も図る。	【達成状況】  ・生徒、保護者、教職員ともに数値目標85%を達成できた。 【次年度の方針】 ・「withコロナ」を前提として、引き続き衛生指導や健康安全に関する指導を充実させていく。
A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 生徒・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 将来への見通しがもてるように、学校教育全般にわたってキャリア教育を推進する。 ② 地域の行事やボランティアへの積極的な参加を奨励し、地域に貢献している意識を体感させる。 ③ 小学校と連携し、キャリアパスポートの有効的な活用を図る。	【達成状況】  ・生徒、保護者は数値目標80%を上回り達成できたが、教職員は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・「キャリアパスポートファイル」の更なる充実及び活用をめざすとともに、コロナ禍でも可能となる活動を模索していく。
A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 85%以上	① 英語の授業のウォーミングやペア学習などで、英語を使ったコミュニケーション活動を取り入れる。 ② A L T の給食や学校行事への参加を通して、生きた英語に触れる機会を充実する。	【達成状況】  ・生徒は数値目標85%を達成できたが、教職員は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・コロナ禍でも可能な指導の工夫を図っていく。

目指す学	A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 80%以上	① 社会科・総合的な学習の時間を中心とした授業の中で、宇都宮に関連した話題を取り上げ、意識を高める。 ② 市の資料などを活用し掲示板を作成し、宇都宮の良さに触れる機会を増やす。	【達成状況】  ・生徒は数値目標 80%を達成できたが、保護者は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・総合的な学習で実施した「宇都宮学」の成果と考えられるが、学習成果の発信方法を工夫していく。
	A 10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 80%以上	① 授業での調べ学習やまとめの学習において、ICT機器や図書を活用する機会を計画的に取り入れ、職員間で活用状況を共有する。 ② ICT機器・図書の活用の仕方を身に付けさせるとともに活用の有効性を認識させる。 ③ 授業の中で学校図書館司書を有効的に活用していく。	【達成状況】  ・生徒、教職員ともに数値目標 80%を達成できた。 【次年度の方針】 ・国語科における図書室利用の促進の成果や GIGA スクール構想の成果と考えられる。今後も活用の工夫を進める。
	A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。 【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 85%以上	① 道德教育を充実し、思いやりや感謝の心を育む。 ② 総合的な学習の時間で福祉教育を系統的に推進し、3年次に高齢者福祉施設との交流を行い、体験を通して意識の高揚を図る。	【達成状況】  ・生徒、保護者ともに数値目標 85%を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、道德教育や体験活動を充実させていく。
	A 12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 80%以上	① 教科・領域の学習の中で、環境問題や防災等を取り上げ、「持続可能な社会」に対する問題意識を持たせる。 ② ゴミの分別など、身近な実践を通して意義を理解させ、環境問題等への関心を高める。 ③ 具体的な活動例を示し、「持続可能な社会」「SDGs」という言葉を生徒職員に浸透させていく。	【達成状況】  ・生徒は数値目標 80%を達成できた。教職員は低く課題と言える。 【次年度の方針】 ・取組を継続すると共に、教職員間での研修機会の充実を図っていく。
	A 13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① 毎週の教育相談部会で情報交換を行い、支援を要する生徒に対して、教職員で共通理解を図り対応する。 ② SCMを中心に全校体制で取り組み、SCやMSを活用したり外部機関との連携を図ったりする。	【達成状況】  ・教職員の数値目標 85%を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、組織的な対応に心がけ、指導や連携を充実させていく。

校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・対応のため、アンケートを定期的に行う。 ② 各種たよりやホームページ等に取り組み状況を公表する。 ③ 定期的にいじめ防止対策委員会を開催し、具体策を検討し学校全体で取り組む。	【達成状況】  ・生徒の数値目標 90%、保護者の数値目標 80%をそれぞれ達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、生徒の言動に注意を払い、アンテナ高く持ち指導を充実させていく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 85%以上	① 認め励ます指導を通して、生徒の自己有用感を育み、生徒の居場所を感じさせる学級経営を展開する。 ② さまざまな情報から生徒の状況を把握し、生徒との相談や保護者との連携を密にして早期発見・対応を図る。	【達成状況】  ・生徒、保護者ともに数値目標 85%を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、生徒一人一人の自己有用感を高められるよう取組を充実させていく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① 生徒及び保護者が必要とする支援を把握し、関係機関との連携なども図りながら適切な支援を行う。 ② 学級経営で、相互理解とよりよい集団作りを推進し、学校や地域社会に順応しやすい土壌をつくる。	【達成状況】  ・教職員の数値目標 85%を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、各所と連携しながら組織的に指導支援していく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 主体性や連帯感を育てるため、生徒が活動し活躍できる機会を意図的に作り、自己有用感を持たせる。 ② 道徳の授業の充実を図り、心豊かな生徒の育成に努める。 ③ 来校者への挨拶を充実させ、活気がある学校づくりを推進する。	【達成状況】  ・生徒、保護者、地域住民ともに数値目標 90%を達成できた。 【次年度の方針】 ・コロナ禍ではあるが、可能な範囲で工夫して行事や活動を充実させ、生徒一人一人の自己有用感を高めていく。
	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	① 分かる楽しい授業を実践して生徒の意欲を高めていく。 ② T・T・習熟度学習やかがやきルームの効果的な活用をなどで、個に応じた指導を工夫し基礎基本の定着を図る。 ③ 生徒個々の意欲を引き出すために、努力した点、成果が見られた点を意図的に賞賛する。	【達成状況】  ・生徒の数値目標 85%、保護者の数値目標 80%をそれぞれ達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、生徒一人一人の学習状況に着目して、指導の工夫を継続していく。

A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① 学校目標や学校経営の方針を全職員が意識し、共通理解のもと教育活動に取り組む。 ② 専門性を有する学校スタッフの職務内容や活用方法を検討し周知しながら連携を深める。 ③ 管理職を中心に、風通しの良い職員関係を構築する。	【達成状況】  教職員 91.3 ・教職員の数値目標 85%を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、組織を活かし連携して業務に取り組んでいく。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 出退勤時間管理を通して、職員への声かけを行い、意識付けを図る。 ② 校務分掌や業務の見直しや削減を検討し、校務の効率化を図る。 ③ 部活動方針に基づき、部活動の適正な運営に努める。	【達成状況】  教職員 87.0 ・教職員の数値目標 80%を達成できた。 【次年度の方針】 ・取組を継続し、より一層、業務の削減や分担の見直し等を進めていく。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 計画的に運営会議・全体会・各部会を開催し、9年間を見通した指導ができるように連携を図る。 ② あいさつ運動・冒険活動の協働実施・中学校訪問など、小中生が交流する合同行事の充実を図る。 ③ 活動状況を周知する方法を工夫し、意識の向上を図る。	【達成状況】  教職員 95.7 保護者 89.0 地域住民 100 生徒 71.0 ・保護者、地域住民ともに数値目標 80%を達成できたが、生徒は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・コロナ禍ではあるが、可能な範囲で取組を充実させていく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 生徒・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 総合的な学習の時間に、富屋特別支援学校や高齢者福祉施設等での交流・体験活動を系統的に位置づけ、福祉教育の推進を図る。 ② 地域の事業所での職場体験や地域の講師によるお囃子の演奏など、地域の方との交流を通して、地域理解を深める。	【達成状況】  教職員 95.7 保護者 91.8 地域住民 100 生徒 85.8 ・地域住民と保護者は数値目標 90%を達成できたが、生徒は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・コロナ禍ではあるが、可能な範囲での取組内容を模索し、充実させていく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 保護者会や学校公開の活用、学校だよりなどの各種通知や学校ホームページでの情報発信の充実などを通して、開かれた学校づくりを推進する。 ② 地域協議会と連携し、情報の共有や学校運営参画機能の充実を図り、地域全体で学校をつくっていく体制を構築する。	【達成状況】  教職員 95.7 保護者 91.8 地域住民 100 生徒 85.8 ・地域住民のみ数値目標 90%を上回り達成できたが、生徒と保護者は達成できなかった。 【次年度の方針】 ・取組を継続すると共に、可能な範囲での取組内容を模索し、充実させていく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者・地域住民・教職員の肯定的回答 80%以上	① 月1回の安全点検や日常の確認を通して、異常箇所の早期発見・修繕を行い、安全管理の徹底を図る。 ② 避難訓練や安全教育を通して、常に振り返りをしながら、危機管理マニュアルの見直しを検討する。	【達成状況】  教職員 100 保護者 92.9 地域住民 100 ・保護者、地域住民、教職員ともに数値目標 80%を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、取組を継続し、事故等の未然防止に努める。

	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 80%以上	① I C T 機器の整備や生徒及び職員からの図書購入希望調査を定期的に行い、必要に応じた準備をすすめる。 ② 司書を中心として、配架を工夫するなど活用しやすい図書室づくりを推進する。	【達成状況】  ・生徒、教職員ともに数値目標 80%を達成できた。 【次年度の方針】 ・図書室や GIGA スクールによる一人一台のパソコンを有効に活用していく。
	B 1 学校は地域行事に生徒を進んで参加させ、他と協調する大切さを教えている。 【数値指標】 保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 生徒に地域の一員であることへの自覚を促し、地域の行事やボランティアへの積極的参加を奨励する。 ② 地域へ貢献している生徒の姿を、学校だよりや学校の掲示板等で積極的に紹介する。	【達成状況】  ・保護者、地域住民ともに数値目標 90%を上回り達成できた。 【次年度の方針】 ・コロナ禍ではあるが、可能な範囲での取組を模索し、充実させていく。
本校の特色・課題等	B 2 学校は体験活動を通して、共感的な人間関係づくりに努めている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上	① 教科・領域等で体験学習を年間計画に系統的に位置づけ実践する。 ② 奉仕活動等「協働」の場の設定を工夫し、協働する中で望ましい人間関係の構築に努める。 ③ 学校行事や生徒会活動で協力して活動するなど、相互の多様な力を認め合う機会を多く設ける。	【達成状況】  ・保護者の数値目標 85%を達成できた。 【次年度の方針】 ・コロナ禍ではあるが、可能な範囲での取組内容を模索し、充実させていく。
	B 3 学校は朝食をとらない生徒に対して、食生活の改善をするように指導している。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上	① 朝食の大切さを指導し、正しい食習慣が健全な心身の発達を促すことを理解させる。 ② アンケートにより、実態を把握し、改善を要する保護者と協力・連携を図り、改善に努める。 ③ 小中の連携を図り、家庭教育の充実を図る。	【達成状況】  ・保護者の数値目標 80%を下回り達成できなかった。 【次年度の方針】 ・取組を継続しつつ、家庭との連携や協力をより充実させていく。
	B 4 教職員は自覚と使命感に燃え、専門職として資質の向上に努めている。 【数値指標】 保護者・教職員の肯定的回答 85%以上	① 分かる授業を目指し、日々の教材研究に励み、互いに授業を見せ合い研究するなど、授業力向上に努める。 ② 不安や悩みをもった生徒や保護者に寄り添い、良好な信頼関係が構築できるように努める。 ③ 保護者会・学校行事・学校公開日では、多くの保護者に参観してもらえるよう、魅力ある教師・学校づくりに努める。	【達成状況】  ・保護者、教職員ともに数値目標 85%を達成できた。 【次年度の方針】 ・引き続き、生徒一人一人の学習状況に着目して、指導の工夫をしていく。

B 5 学校は褒め励ます指導を全職員で行い、生徒一人ひとりの長所を伸ばそうとしている。 【数値指標】 保護者・教職員の肯定的回答 80%以上	① 日々の活動の様子から生徒個々の良さを発見し、個性の伸長に努める。 ② 常に、褒め・認め・励ます指導を全職員が実践するとともに、生徒の良さを様々な機会を通して紹介する。 ③ 学年・学級経営において、生徒と教師・生徒間のコミュニケーションを密に図っていく。	【達成状況】  ・保護者、教職員ともに数値目標 80%を上回り達成できた。 【次年度の方針】 ・取組を継続していく。
B 6 晃陽中のホームページにより、学校の状況が伝わっている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 50%以上	① 日常的にホームページの更新を行い、学校の状況を公開する。 ② ホームページの構成等の検討を行い、より見やすく分かりやすいものにする。 ③ ホームページの利用について、たより等で案内していく。	【達成状況】  ・保護者の数値目標 50%は達成出来なかったが、昨年度からは向上した。 【次年度の方針】 ・紙での通知等もホームページで公開していく。

〔総合的な評価〕

本年度も昨年度と同様にコロナ禍ではあったが、幸いなことに合唱コンクールのみ中止にはなったが、それ以外の大きな行事（運動会、冒険活動教室、社会体験学習、修学旅行、文化祭代替行事など）は、内容の変更等はあったもののほぼ実施することができた。そのため、アンケート結果としては、昨年度以上に全体的に良い結果であった。

そこで、本年度は結果の分析を昨年度比で【向上した項目】【下がった項目】と【職員と生徒の結果の差異が大きかった項目】に分類し、全教職員で検討することにした。それらの項目と分析結果を以下に示す。

【昨年度比で向上した項目の評価について】※（+Op）は、昨年度と比較して上がった数値（%）

- ・No.6（A6）『生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。』生徒（+2.6p）、教職員（+3.7p）
- ・No.9（A10,A25）『生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。』生徒（+5.9p）
- ・No.8（A9）『生徒は、宇都宮の良さを知っている。』教職員（+6.6p）、生徒（+7.2p）
- ・No.10（A12）『生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。』教職員（+17.6p）、生徒（+4.8p）
- ・No.15（A18）『教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。』生徒（+7.6p）
- ・No.22（B2）『学校は体験活動を通して、共感的な人間関係づくりに努めている。』生徒（+2.0p）、保護者（+3.8p）
- ・No.12（A14）『学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。』生徒（+3.2p）、保護者（+2.4p）
- ・No.20（A24）『学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。』保護者（+1.6p）

⇒これらの項目は、多くの調査対象者において向上した。共通する要因としては、教職員がコロナ対応を含め、きめ細やかな指導を意識し実践したことが、肯定的に評価されたものと考えられる。更には、先生方の指導により生徒の情報リテラシー（ICT機器の活用能力）の向上も成果につながったと考えられる。それらの具体的な取組を以下に示す。

- ・授業での取り組みの工夫 ※ICT機器の利用、宇都宮学の実施、SDG'Sに関する指導他
- ・GIGAスクール（一人一台端末）の活用
- ・コロナ禍における指導方法の工夫 ※話し合い活動の短時間化、AIドリルの活用、
- ・コロナ禍における校内の掲示や表示の工夫（※ソーシャルステイタスが取れる足元表示、ポスターの掲示等、CO2センサーの設置、教室換気の標準化）などがあげられる。

【昨年度比で下がった項目の評価について】

- ・No.5（A5, A7）『生徒は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。』教職員（-6.8p）、生徒（-1.6p）
- ・No.21（B1）『学校は地域行事に生徒を進んで参加させ、他と協調する大切さを教えている。』教職員（-17.4p）、生徒（-4.2p）
- ・No.18（A21）『学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。』保護者（-6.1p）生徒（-7.5p）

・ No.1 (A1) 『生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。』教職員 (-4.4p), 保護者 (-2.9p)
⇒これらの項目に共通する要因としては、コロナ禍による活動の制限が生徒のメンタル的な面にも影響したものと考えられる。特に外部との交流に関する行事は、引き続き制約や中止が相次ぎ、達成感などを十分に経験させることができなかったこと。授業においても話し合いや発表の機会を減らさねばならないことなどがあり、また、授業参観の機会も設定できなかったことなどが大きく影響したものと考えられる。

【職員と生徒の結果の差異が大きかった項目について】

・ No.25 (B5) 『学校は褒め励ます指導を全職員で行い、生徒一人ひとりの長所を伸ばそうとしている。』教職員 (-4.7p), 生徒 (+5.1p)
・ No.24 (B4) 『教職員は自覚と使命感に燃え、専門職として資質の向上に努めている。』教職員 (-4.4p), 生徒 (+5.8p)
・ No.14 (A17) 『学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。』教職員 (-13p), 生徒 (+1.4p)
・ No.2 (A2, A11) 『生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。』教職員 (-4.4p), 生徒 (+4.5p)
⇒これらの項目の共通する要因としては、もともと教職員の評価は厳しい傾向があるが、出張などが減り、生徒と接する時間が増えたため、教職員による生徒の評価がより厳しくなったことが考えられる。更には、コロナ対応のため通常業務ではない業務も増え、ある意味先生方の余裕がなくなり、職員間の評価も厳しくなってしまったのではないかという意見も挙げられた。一方で、生徒は先生方や先生方の取組を肯定的に評価しており、また、コロナ禍2年目となったこともあり、生徒自身は昨年度に比べ教職員による評価以上に「やっている」と感じている生徒が多くなっていることが考えられる。

今回のこれらの項目の結果を受け、生徒は先生方を肯定的に評価していることと同様に、教職員も生徒をもっと肯定的に評価できるようにしていくことを確認し合った。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

本年度は、「with コロナ」を前提としてスタートした。